

17 オオハム

(アビ目)

Gavia arctica

兵庫県ランク:要調査

繁殖個体群:無 越冬個体群:調 通過個体群:調

環境省ランク:指定なし

種の概要

北海道、本州、四国、九州では冬鳥。兵庫県では主に11-翌4月に記録がある。主に外海や内海に生息し、稀に内湾、河口、沿岸近くの湖沼などで見られる。潜水をして魚類を捕食する。重油や化学物質の流出による被害で、海上の群れが大きな打撃を受けることがある。



写真提供:松重和太

国内分布

北海道、南千島、本州、四国、九州、対馬、男女群島、奄美諸島

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

(神戸市)、(姫路市)、明石市、(西宮市)、洲本市、(伊丹市)、豊岡市、加古川市、南あわじ市、淡路市、(たつの市)、播磨町、香美町



主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性	
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ね特殊ら休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

新規追加種。

かつては瀬戸内海では10数羽から70羽前後の越冬群が普通に見られていた。1970年台には越夏例も記録されている。しかし、近年は減少が著しく、最近では単独の個体が瀬戸内海や日本海の沿岸で稀に観察される程度である。海上での生息状況はよくわかっていない。

保護上の留意点

県内における分布および生息に関する調査が必要であるほか、生息海域の海洋環境の保全が重要。また、漁網やはえ縄などによる捕獲の被害に遭うことがあるので、地域によっては漁業者との調整が必要。